

1 令和6年度事業実施状況 P 2

- (1) 常設展示事業 P 2
- (2) 企画展示事業 P 4
- (3) 美術作品収集事業 P 10
- (4) 一般向け普及事業 P 11
- (5) 美術館の利用促進事業 P 16
- (6) 子供向け事業 P 17
- (7) 学校との連携 P 19
- (8) ボランティア活動 P 21
- (9) 「椅子」の有効活用 P 22
- (10) 一般展示室の利用状況 P 23
- (11) 入館者数一覧 P 27

2 令和7年度事業計画（案） P 28

- (1) 常設展示事業 P 28
- (2) 企画展示事業 P 29
- (3) 美術作品収集事業 P 32
- (4) 一般向け普及事業 P 32
- (5) 美術館の利用促進事業 P 33
- (6) 子供向け事業 P 34
- (7) 学校との連携 P 36
- (8) ボランティア活動 P 37
- (9) 「椅子」の有効活用 P 38

令和6年度 事業実施状況

1 常設展示事業

(1) MOMASコレクション（常設展）の開催

年間を4つの会期に分け、会期毎に名品を核とした「セレクション」コーナーや多彩なテーマを掲げたコーナーを設定し、作品の魅力を紹介する（一部、借用作品を含む）。（※有料観覧者数には、企画展観覧券付属の招待券で入場した人数を含む。）

内 容	展示 作品数	期 間	観覧者数
<ul style="list-style-type: none"> ○「セレクション」 ピカソほか、MOMASコレクションの名品を紹介。 ○「シュルレアリスム宣言100周年」 夢や無意識といったキーワードをもとに、シュルレアリスムの世界を紹介。 	82点	自 6月8日（土） 至 8月25日（日） （66日間）	9,858人 1日当たり149人 うち有料観覧者数4,257人 1日当たり64人
<ul style="list-style-type: none"> ○「セレクション」 モネほか、MOMASコレクションの名品を紹介。 ○「旅路の画家」 旅をテーマに、スケッチや版画、日本画などを紹介。 ○「さいきんのたまもの」 近年新たに美術館のコレクションに仲間入りした作品を紹介。 	63点	自 8月31日（土） 至 11月24日（日） （78日間）	10,248人 1日当たり131人 うち有料観覧者数4,182人 1日当たり53人
<ul style="list-style-type: none"> ○「セレクション」 シャガールほか、MOMASコレクションの名品を紹介。 ○「戦後日本美術の開拓者たち」 企画展「没後30年 木下佳通代」の開催にあわせ、関西の作家を中心に、戦後の日本美術の動向を紹介。 ○「特集：木村直道」 廃品などを使いユーモアあふれる作品を生み出した、県内ゆかりの彫刻家・木村直道の世界を紹介。 	73点	自 11月30日（土） 至 令和7年 3月2日（日） （75日間）	5,138人 1日当たり107人 うち有料観覧者数2,107人 1日当たり44人 （1月31日現在：48日）

内 容	展示 作品数	期 間	観覧者数
○「セレクション」 シニャックほか、MOMAS コレクションの名品を紹介。 ○「アメリカの美術家たち」 移動や越境をキーワードに、新天地あるいは故郷としてのアメリカ、芸術 の実験場としての都市などの視点から、アメリカで活動した作家の作品を 紹介。	一点	自 令和7年 3月8日（土） 至 6月1日（日） （71日間）	一人 1日当たり一人 うち有料観覧者数一人 1日当たり一人

(2) コレクション・トークの開催

MOMAS コレクションで展示中の収蔵作品から1点を選んで、当館学芸員が解説する。（年10日程度）

	期日	担当学芸員	解説作品	参加者数
①	5月26日（日）	嶋原学芸員	リートフェルト《レッド・アンド・ブルー》	25人
②	6月23日（日）	吉岡主任学芸員	キスリング《リタ・ヴァン・リアの肖像》	17人
③	8月17日（日）	佐伯学芸員	ポール・デルヴォー《森》	30人
④	9月7日（土）	松江学芸員	文谷有佳里《何もない風景を眺める》	26人
⑤	9月23日（月・祝）	菊地学芸員	堂本印象《鳥言長者草》	31人
⑥	10月20日（日）	篠原学芸員	斎藤豊作《装飾画（蓮と鯉Ⅰ）》	23人
⑦	12月22日（日）	佐藤学芸員	郭徳俊《クリントンと郭》	12人
⑧	1月18日（土）	大浦主任学芸員	木村直道《エリオット氏のトイレット》	19人
⑨	2月23日（日・祝）	平野副館長	北辻良央《WORK--HH》	-人
⑩	3月23日（日）	西尾学芸員	武内鶴之助《アラシの夕》	-人
計				183人

2 企画展示事業

(1) 企画展の開催

特定のテーマのもとに、国内外の作品を年4回展示する。

展覧会名	内 容	展示 作品数	期 間	観覧者数
アブソリュート・チェアーズ	私たちの身近な存在である椅子は、権威の象徴として、記憶の依り代として、あるいは拡張された身体として、様々な意味や象徴性をまとっている。アーティストたちは椅子がもつ意味をとらえ、作品を通じて社会の不和や矛盾、個人的な記憶や他者との関係性などを浮かび上がらせてきた。本展では、椅子をめぐる国内外の平面・立体・映像作品を紹介し、現代美術のなかの椅子の機能や含意を読み解く。	83 点	自 令和6年 2月17日（土） 至 5月12日（日） （76日間/ R6年度・38日間）	R6 年度 6,190 人 1 日当たり 162 人 うち有料観覧者数 4,043 人 1 日当たり 106 人 R5・R6 計 11,256 人
吉田克朗展 ーものに、風景に、世界に触れる	吉田克朗（1943-1999）は、1960年代末に登場したもの派の中心的な作家として知られている。その一方、最初期から写真素材にした版画を制作し、70年代半ばから風景の断片を描くドローイング、物体の転写やフロッタージュを通して絵画を模索した。80年代には風景や身体を抽象化した絵画連作「かげろう」を手がけ、その後、黒鉛を手でこすりつけて描く「触」のシリーズを精力的に制作する。本展では、埼玉県深谷市出身の吉田を初めて回顧し、その全貌に迫る。	174 点	自 7月13日（土） 至 9月23日（月・祝） （66日間）	8,863 人 1 日当たり 134 人 うち有料観覧者数 4,389 人 1 日当たり 66 人

展覧会名	内 容	展示 作品数	期 間	観覧者数
没後 30 年 木下佳通代	木下佳通代（1939-1994）は兵庫を拠点に活動した、関西の戦後美術を代表する作家のひとりである。1960年代半ばより、神戸で結成された前衛美術集団「グループ〈位〉」と行動をともにしながら、存在、認識、空間などをテーマに、三次元と二次元像のズレを、写真を用いて表現した。その後絵画へと軸足を移していくが、一貫して「存在とは何か」という哲学的な問いに向き合い続けた。大阪中之島美術館との巡回展として開催される本展では、初期から晩年までの代表作を展示し、国内初となる美術館での個展として、作家の全貌を紹介する。	133 点	自 10月12日（土） 至 令和7年 1月13日（月・祝） （76日間） ※10月16日、17日は 施設メンテナンス のため休室 （実質74日間）	6,365 人 1日あたり 86 人 うち有料観覧者数 3,280 人 1日あたり 44 人
メキシコへの まなざし	1950年代の日本では、メキシコ美術が盛んに紹介され、多くの美術家はその鮮やかな色彩や力強い造形表現に魅了された。当館では、開館以来メキシコの近現代美術を収集してきたが、その出発点には、50年代のメキシコ美術に対する熱いまなざしがあったと考えられる。本展では、メキシコに憧れた日本の美術家たちの足跡と、当館のコレクションの双方から、戦後日本がメキシコ美術をどのように捉えたのかを考察する。	148 点	自 令和7年 2月1日（土） 至 5月11日（日） （88日間/ R6年度・51日間）	約 8,300 人 （R6年度内見込）

(2) アーティスト・プロジェクトの開催

MOMAS コレクションや企画展の枠を超え、現在活躍しているアーティストを紹介する展示プログラムとして開催する。

展覧会名	内 容	展示 作品数	期 間	観覧者 見 込
アーティスト・プロジェクト#2.08 松平莉奈	京都を拠点に活動する松平莉奈（1989-）は、日本画や東洋の絵画の画材や技法をベースに、日本近世の史実や物語、歴史上の人物などを題材にした具象画を制作している。「他者について想像すること」をテーマとした松平が描く人物像は、時にユーモラスに、時に迫力をもって、けして完全にはわかりあえない他者への理解、共感を促す。本展では新作を中心に紹介する。	16 点	自 令和7年 2月 1日（土） 至 5月11日（日） (88 日間/ R6年度・51日間)	—

(3) 関連事業等の開催

企画展について理解を深めるため、関連事業等を開催する。

ア アブソリュート・チェアーズ

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
4月21日（日）	ワークショップ「埼玉県立近代美術館の避難プロトコルをプレイする。」	檜皮一彦（本展出品作家）	12人	9人

イ 吉田克朗展ーものに、風景に、世界に触れる

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
7月21日（日）	レクチャープログラム① 「吉田克朗を語る」	千葉成夫（美術評論家）	80人	61人
8月31日（土）	レクチャープログラム② 「吉田克朗の絵画について」	沢山遼（武蔵野美術大学准教授、美術評論家）	80人	64人

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
9月23日（月・祝）	クロージングイベント 「これからの吉田克朗」	①連続対談 A 吉田有紀（作家ご長男）×平野到（当館副館長） B 山本雅美（奈良県立美術館学芸課長、吉田克朗研究者）×西澤晴美（神奈川県立近代美術館主任学芸員、吉田克朗展担当者） ②ラウンドテーブル 吉田有紀（作家ご長男）、吉田成志（作家ご次男）、山本雅美、西澤晴美、平野到、菊地真央（当館学芸員）	各回80人	① 90人 ② 94人

ウ 没後30年 木下佳通代

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
10月19日（土）	レクチャー「展覧会のための調査から見えてきたもの」	大下裕司（大阪中之島美術館学芸員）	80人	37人
11月3日（日・祝）	対談「絵画から写真、そして絵画へー存在からも自由になった木下佳通代」	植松奎二（美術家）、建畠哲（当館館長）	80人	46人
1月12日（日）	担当学芸員によるスライド・レクチャー	佐藤あゆか（当館学芸員）	80人	22人

エ メキシコへのまなざし

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
2月8日（土）	レクチャー「1995年のリアリズム」	辻泰岳（専門：美術史および建築史）	80人	57人
2月24日（月・祝）	レクチャー「岡本太郎とメキシコ」	仲野泰生（京都場館長／元川崎市岡本太郎美術館学芸員）	80人	一人

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
3月1日（土）	トーク「1960年代メキシコ紀行 ―利根山光人のカメラを通して―	立花 雅子（利根山光人長女／アルテトネヤマ理事）、佐伯 綾希（当館学芸員）	80人	一人
3月22日（土）	制作実演＋トーク＋映像上映	イサイーアス・ヒメネス（メキシコ民芸作家）、山本 正宏（LABRAVA）	80人	一人

オ アーティスト・プロジェクト#2.08

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
2月2日（日）	作家によるギャラリートーク	松平莉奈（本展出品作家）	—	35人
3月15日（土）	作家によるスライドレクチャー	松平莉奈（本展出品作家）	80人	一人

(4) ギャラリー・トークの開催

より充実した鑑賞の機会とするため、担当学芸員による展示解説を実施する。

展覧会名	期 日	参加者数	備 考
アブソリュート・チェアーズ	4月13日（土）	32人	—
吉田克朗展	7月14日（日）	32人	—
	8月25日（日）	45人	

展覧会名	期 日	参加者数	備 考
没後30年 木下佳通代	10月27日（日）	25人	—
	12月15日（日）※ ※手話通訳・文字表示付き	25人	協働：NPO法人エイブル・アート・ジャパン （文化庁委託事業 令和6年度障害者等による文化芸術活動推進授業「みんなでミュージアム」） 協力：株式会社ジャパンディスプレイ
メキシコへのまなざし	令和7年4月12日（土） 令和7年5月4日（日・祝）	一人 一人	—
アーティスト・プロジェクト #2.08	令和7年3月2日（日）	一人	—

(5) ミュージアム・カレッジの開催

埼玉大学教養学部との共催により、企画展に関連したテーマで公開講座を開催する。

テーマ：「「没後30年 木下佳通代」によせて—絵画、写真を解きほぐす」

期 日	テーマ	講 師 等	定 員	参加者数
11月30日（土）	「クオリアからクオリティへ—色彩と絵画を哲学する—」	高橋克也（埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授）	80人	30人
12月7日（土）	「木下佳通代—その思考と生涯」	佐藤あゆか（当館学芸員）	80人	34人
12月14日（土）	「コンセプチュアル・アートとしての写真」	井口壽乃（埼玉大学名誉教授）	80人	23人
12月21日（土）	「抽象の想像力—女性アーティストの仕事」	中嶋泉（大阪大学大学院人文学研究科准教授）	80人	40人
計				127人

3 美術作品収集事業

近現代美術を対象に、本県にゆかりのある作家及び本県の美術界に影響を与えた国内外の作家の作品を収集している。令和6年度は、10月1日～9日に第1回美術資料選考評価委員会を持ち回り審議にて開催し、下記の通り寄贈による作品収集を行った。（購入による収集はなし。）なお、令和7年2月19日に第2回美術資料選考評価委員会を対面審議にて開催し、受入手続を進める。

◆寄贈（10点）

令和7年1月31日現在

No.	種別	作家名	作品名	制作年	材質・技法	収集方針
1	油彩画	加藤清美	閉ざされた扉B	1976(昭和51)年	油彩、カンヴァス	2
2	版画	中林忠良	中林忠良オリジナル銅版画集『剥離される日々』	1973(昭和48)年	エッチング、アクアチント、メゾチント、ドライポイント、ディープエッチングほか、紙	1
3	版画	小作青史	小作青史石版画集『VARIATION B』	1974(昭和49)年	リトグラフ、紙	2
4	版画	柄澤齊	『燭罪領<「七つの大罪」による>』	1975(昭和50)年	木口木版、雁皮紙、紙	2
5	版画	池田満寿夫	横たわる婦人	1961(昭和36)年	ドライポイント、アクアチント、紙	2
6	版画	池田満寿夫	出来事	1962(昭和37)年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	2
7	版画	池田満寿夫	花嫁の領地	1962(昭和37)年	ドライポイント、エッチング、紙	2
8	版画	池田満寿夫	庭を横切る昆虫	1962(昭和37)年	ドライポイント、エッチング、紙	2
9	版画	池田満寿夫	ぼくだけのもの	1963(昭和38)年	ドライポイント、ルーレット、紙	2
10	版画	池田満寿夫	日付のない日	1963(昭和38)年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	2
※ 収集方針： 1 本県にゆかりのある優れた作家の作品 2 本県の美術界に影響を与えた国内外の作家の作品 3 本県美術文化の振興に寄与する作品 4 上記の作家及び作品を理解する上で必要とする資料						

4 一般向け普及事業

(1) ミュージアム・レクチャーの開催

多くの方々に美術に親んでもらうため、レクチャーを含むプログラムを開催する。内容については当館の展覧会や収蔵作品と必ずしも結び付けず、聴講者が今後様々な場で作品を鑑賞する時や、制作を行う際の刺激となることをねらいとする。

期 日	内 容	講 師	定 員	参加者数
11月2日（土）	「ビフォー・アフターを越えて—保存修復の技法と理念」	田口かおり（京都大学大学院人間・環境学研究科准教授）	80人	21人

(2) ミュージアム・シアターの開催

映画や音楽、パフォーマンスといった、展覧会ではなかなか紹介できない表現について取り上げるプログラムを開催する。

期 日	内 容	講 師	定 員	参加者数
8月3日（土）	ダンスパフォーマンス「Errance-さすらい」（同日2回講演） ※講演後、アフタートークあり	振付：ディモ・キリーロフ・ミレフ 出演：三崎彩（コンテンポラリーダンサー）	各回50人	① 50人 ② 55人
令和7年 3月8日（土） 3月9日（日）	「映画のなかの女性イメージ —見る／見られる女性」 3月8日 上映作品 ①「めまい」②「裏窓」③「燃ゆる女の肖像」 3月9日 上映作品 ④「めまい」⑤「燃ゆる女の肖像」 ※⑤上映後、講演会あり	斉藤綾子（映画研究者、明治学院大学教授）	各回80人	—

(3) 一般団体案内

企画展やMOMASコレクション展を観覧する2人以上の団体を対象に、スライドによる案内（「スライド・トーク」）を行う。内容は、展覧会の見どころや作品解説、美術館全体の案内、屋外彫刻の解説など、希望に応じた内容・時間で対応する。なお、視覚障がい者を対象としたガイドや講座も受け付けている。

スライド・トーク：4団体 63人（1月31日現在）
視覚障害者鑑賞ガイドプログラム：5団体 88人（1月31日現在）

(4) 資料閲覧室の運営

国内外の美術図書、雑誌を公開するとともに、美術情報の提供や資料相談を行う。

開室日時：火・木・土曜日の13時～17時

資料相談数：94件（1月31日現在）

利用者数：1,813人（1月31日現在）

(5) 広聴広報活動

ア 来館者の意見を美術館活動に反映していくため、受付にアンケートコーナーを設置。

併せて、企画展、MOMASコレクション、普及関連の講座等でアンケート調査を実施した。

（企画展アンケート結果）

○「アブソリュート・チェアーズ」（2月17日～5月12日、76日間）／回答数523件／満足度97%

（主な意見）

- ・「椅子のコレクション」といえば埼玉、近美かムサビを思い浮かべるが一昨年のもサビの「みんなの椅子」の“体感するデザイナーズチェア”とは違い“椅子とは何か”を座ることを（ほとんど）拒否しながら考えさせるというコンセプトがおもしろかった。
- ・椅子という身近なものがテーマなので、小学生の子供も楽しめるかなと思って来館しました。家具という親しみやすい性質がある反面、権力との関係性であったり、各人の社会的立場を表すものであったり、色々な「椅子」の意味について改めて考えることができ、有意義な内容でした。
- ・椅子というテーマがこれだけの広がりを持つのか、という驚きと、学びがあった。とても見やすい展示でした。作品も、丁度良い点数でそれぞれから多様なメッセージを受け取れ、非常に充実した鑑賞体験となった。ありがとうございました。

○「吉田克朗展」（7月13日～9月23日、66日間）／回答数180件／満足度96%

（主な意見）

- ・吉田克朗の全貌を見ることができ、変化していく作品を制作していることがよく理解できました。企画展として（「もの派」の吉田克朗しか知らなかったの）たいへんよいものであったと思いました。

- ・後半の手で描かれた触シリーズがとても良かった。触感が伝わってきた。作品のスケッチや手書きの文章もじっくり読めてよかった。
- ・照明のみせかたや作品の配置、天井の高さやコンセントにいたるまで、“もの”を“もの”としてもしくは“もの”を超えてみるために展示されていると感じました。私は10代ですが、今日の経験は数年後の私の起点となると思います。

○「没後30年 木下佳通代」（10月12日～1月13日、74日間）／回答数222件／満足度95%

（主な意見）

- ・存在を考えるきっかけになれた。とても良い展示ばかりで他の作品も見たくなかった。木下さんがまだ生きていたらどんな作品になるのか、この時代を見てどんな風に思うかなど色々考えさせられた。
- ・レクチャーを聞いたことによって作家の人物像や背景により近付くことができ、作品への見る思いも厚みが出たように思う。とてもよい経験になりました
- ・展示の仕方がいつもとまた違った感じで、作品だけでなく展示空間も楽しく、ハッとさせられました。楽しかったです。

（MOMASコレクションアンケート結果）

○6月8日～8月25日（66日間）／回答数432件／満足度99%

（主な意見）

- ・MOMASコレクション、とても充実しており楽しめました。結構近くに住んでいながら、今回が初めての訪問です。たまたまインターネットで検索して見つけました。入館料も手頃で、また来たいと思いました。
- ・夏休み、娘（小1）とワークショップの帰りに立ち寄りしました。まだ難しいだろうと来たことがなかったのですが、「怖いね」とか「かわいい」と娘なりの感性で楽しんでいたように思います。おえかきや工作が好きなので、また連れてきたいです。亡き母とこうして美術館に来た日々を思い出しました。

○8月31日～11月24日（78日間）／回答数387件／満足度97%

（主な意見）

- ・入館料¥200でこんなに楽しめていいのかしら、というぐらい充実の展示でした。解説文がわかりやすく、画家が絵を描いた背景を知ることができ、絵に対する理解が深まりました。埼玉にゆかりのある画家を知ることができました。
- ・県民の日プログラム、子供向けの鑑賞ツアーに参加させていただいた。3作品を3人の方が一作品担当され、親子で3組私を含め10人程のグループで作品を鑑賞、初めは言葉少なのお子さんも3作品を見終る頃にはすっかりリラックスして、色々なコメントが出て、楽しいツアーになりました。ファシリテーターの個性も出ていい時間を過ごすことが出来ました。

(MOMASのとびらアンケート結果)

○満足度 98% (事前申込制のプログラムに限る。)

(主な意見)

- ・展示が気になっていたのですが、少し見られてとても嬉しかったです。最初から最後まで周りのスタッフさんのサポートでとても楽しく取り組みました。普段は味わえない刺激をたくさん受け、充実した体験ができました。ありがとうございました。(保護者)
- ・娘は紙を染めるということが初めての体験でした。イメージを膨らませて考えながら取り組めたようで、とてもいい体験となりました。(保護者)
- ・とても楽しかったです。親も本気で作れるところがとてもよかったです。また来ます！(保護者)
- ・作ることが楽しいと時間があっという間に過ぎてしまいました！子供のころに戻ったようでした。(保護者)
- ・参加者により発想が異なり、その面白さを改めて感じました。スタッフの方もいつも親切丁寧で参加することが楽しみです。またお願いします。(保護者)
- ・何を作ったらいいか考えることが一番難しかったです。日頃想像(創造)する機会がないことを体感しました。他の人の作品、子供のユニークな考えに触れることができました。(保護者)
- ・創作が苦手ですが、つくってみたら楽しかったです。材料が豊富で子供が大喜びでした！(保護者)
- ・ざいりょうがいっぱいあって、いろんなかざりをつけたりして、とても楽しかったです。また親子でできるこういうイベントがあってほしいです。(小2)
- ・つみわらの中に海が作れて楽しかったです。イルカのところのシールは水しぶきで、その横はあわのイメージです。クマノミとチンアナゴと、ニシキチンアナゴも作りました。(小4)
- ・えのぐがひかってびっくりしました。(未就学児)

イ アンケートやインターネットで受け付けた質問や要望に対し、随時回答を行った。

ウ 広報紙「ソカロ(MUSEUM NEWS)」、「MUSEUM CALENDAR」及び企画展ポスターやちらし、学校向けの利用案内等を作成し、県内の情報拠点や全小・中・高、特別支援学校、全国の美術館等に配布した。

約 4,000 箇所年に 4 回配布 (1 月 31 日現在)

エ 美術館ホームページやX、Facebook、Youtube を活用して、企画展やMOMAS コレクション、その他の様々な催し物の内容や利用案内など、最新の美術館情報を発信した。

ホームページ	更新数 231 回、年間ページビュー数	766,937PV
X	更新数 249 回、総フォロワー数	28,551 人
Facebook	更新数 120 回、総フォロワー数	3,488 人
Youtube	更新数 0 回、総再生数	146,950 回 ※いずれも 1 月 31 日現在

オ プレスリリースの配信、記者発表、プレス内覧会の実施など、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、WEB 等各種の媒体に向けて積極的なパブリシティを行った。

プレスリリース 3 回、報道発表 7 回、プレス内覧会 3 回、各種メディアによる記事化 161 件 (1 月 31 日現在)

カ Google Arts & Culture に参加し、当館のコレクションやストリートビューを発信した。

キ MOMAS コレクション及び企画展の開催にあわせ、JR 東日本大宮支社の協力を得て北浦和駅構内にポスターを掲出した。

ク JR 大宮駅東口「アイ大宮東ビジョン」にて、企画展「メキシコへのまなざし」の PR 動画を配信した。(2 月 1 日～3 月 31 日、15 秒/時間)



(ビジョンイメージ画像)

ケ 北浦和地区の自治会、商店会あて、企画展チラシの回覧や掲示を行った。

コ 県民の日にMOMAS コレクション観覧料無料サービスを実施した。

サ 国立国会図書館によるデータベース「ジャパンサーチ」に収蔵作品の情報を提供し、一般に公開した。

シ 県・県民広聴課が令和5年11月にWEB上に開設した「バーチャル埼玉」※へ引き続き参加し、館の概要や展覧会情報、教育普及事業について随時掲載した。

また、県教育委員会のSNSを通じて展覧会情報等を県民に提供した。

※ 埼玉県が、県の魅力発信や各種相談・交流等の行政サービスを提供するために運用するメタバース空間。埼玉オリジナルアバター（ばーたま）で空間へ入ると、3Dで再現された埼玉の街並みや地形が広がり、リアルとバーチャルが融合した不思議な空間をいつ・どこからでも簡単に散策することができる。（<https://virtual-saitama.pref.saitama.lg.jp/>）

5 美術館の利用促進事業

(1) 北浦和公園ポリス・コンサート

北浦和公園の活用を通じて、美術館利用を促進するため、下記の事業に協力した。

期 日	内 容	場 所	客 席	参加者数
6月8日（土）	「北浦和公園ポリス・コンサート」 出演：埼玉県警察音楽隊・カラーガード隊 主催：埼玉県警察本部広報課	北浦和公園	100 席	100人 見学400人

(2) ファミリー鑑賞会

ベビーカーの赤ちゃんや未就学児など、乳幼児のお子様と一緒にゆっくり作品を観覧していただけるよう、MOMASコレクション「ファミリー鑑賞会」を企画した。

期 日	内 容	参加者数
11月20日（水）	スタッフによる作品解説及び観覧サポート	11組 29人
2月20日（木）		一人

6 子供向け事業

(1) 「MOMASのとびら」

主に土曜日に「MOMASのとびら」としてワークショップを開催した。

各ワークショップは、職員を中心に、授業連携をしている埼玉大学の学生や当館ボランティア「教育普及サポート・スタッフ」の協力を得て実施した。各回の定員があり参加者が限られてしまうため、プログラムによっては同じ内容を複数回行った。

	プログラム	概要	期 日	内 容	定 員	参加者数
1	みる+つくる	MOMASコレクションや企画展を鑑賞し、鑑賞をもとに工作などを行った。	5月18日 6月22日 10月 5日 10月26日	「MOMASの形でオブジェを作ろう」 ※5月18日と同内容 「世界にひとつ！積みわらをつくろう」 ※10月5日と同内容	各24人	19人 18人 19人 19人
2	親子クルーズ	MOMASコレクションや企画展を親子で鑑賞し、鑑賞をもとに工作などを行った。	11月 2日 11月30日 2月 1日 2月 8日	「積みわらのなかみは何だろう？」 「君の中身はなんだろう」 「折り染めでつくろう！カラフルボンチョ」 ※2月1日と同内容	各12組 24名	22人 20人 21人 19人
3	み～っけ！	幼児（4歳から）とその保護者の美術館デビューをねらい、美術館でのできごとを体いっぱい楽しむプログラムを行った。	6月 1日 6月29日 12月14日 12月21日	「キラキラ枢機卿に大変身」 ※6月1日と同内容 「絵が変わる！変化するMOMAS」 ※12月14日と同内容	各8組 16名	14人 14人 16人 13人
4	工房	美術館ならではの作品づくりを楽しむプログラムを行った。	7月 6日 7月20日 1月25日 3月 1日 3月 8日	「板から椅子ができた」 ※7月6日と同内容 「ムギュ ザブーン もりもりアート」 － 調整中 － － 調整中 －	各24人	22人 18人 24人 -人 -人
5	彫刻あらいぐま	屋外彫刻を親子で洗って鑑賞するプログラムを行った。彫刻ボランティアが講師として活動した。	4月27日 5月11日 9月21日 9月28日	「あらって見よう！彫刻作品」	各6組 12名	12人 10人 6人 9人

	プログラム	概要	期 日	内 容	定 員	参加者数
6	フリープログラム	天候・会場等に合わせ、誰でも気軽に参加できるプログラムを実施した。プログラムの内容や会場等に応じて、時間制で複数回実施した。	4月 6日 4月20日 5月 4日 10月12日 12月7日 12月8日 1月11日 2月15日	洗濯ばさみで絵を描こう！ キラキラ★カチカチスプーンワールド！ 風を描こう！・洗濯ばさみで絵を描こう！ お顔をトレース肖像画・カラフルラインで紙袋をつくろう！ カラフルラインで紙袋をつくろう！特別バージョン 洗濯ばさみで絵を描こう！（イオンモール川口） アート・ビンゴ キラキラ★カチカチスプーンワールド カクカクつなげて遊ぼう つなげて遊ぼう	40人 40人 40人 40人 40人 50人 40人 40人	45人 75人 268人 71人 75人 410人 171人 一人
7	サマー・アドベンチャー	夏休み期間限定の特別プログラムを行った。	8月 3日 8月10日 8月17日 8月24日	大きな布に手で描こう！ フリープログラムDAY 親子でガムテープのズック屋さん！ 手はおひざ〜じゃなくなっけなしよう！？	24人 40人 48人 24人	17人 260人 48人 24人
8	もますまつり	県民の日に、誰でも参加できるプログラムを行った。	11月14日	わくわく鑑賞ツアー 洗濯ばさみで絵を描こう！ 風を描こう！	20～60人	342人

(2) 「夏休みMOMASステーション」

夏休みに来館した子供たちが美術館を効果的に楽しめるよう、ボランティアを活用して情報提供やアドバイス等を行った。

※小・中学校の夏休み期間に合わせて休館日を除き毎日開催（7/13～8/27、41日間） 利用者数 3,033人

(3) 「夏休みガイド・ツアー」

来館した小・中学生を主な対象として、夏休み期間中の午前中の30分間、常設展示室をサポート・スタッフが対話型の鑑賞を行いながら案内した。

実績：①7月27日（土）参加者 28人、②8月10日（土）参加者 68人

7 学校との連携

(1) 教員美術講座の開催

美術館を活用した鑑賞指導に関する講演会等を開催し、学校における美術館利用促進と鑑賞教育の充実を図った。

期 日	内 容	定 員	参加者数
8月 7日 (水)	初級「多様な描画材体験を通じて創作活動をアップデート！」 (講師：石上城行／埼玉大学教育学部芸術講座 教授)	24人	26人
8月 8日 (木)	中級「造形素材の加工体験を通じて創作活動をアップデート！」 (講師：石上城行／埼玉大学教育学部芸術講座 教授)	24人	22人

(2) 埼玉大学との授業連携・他大学との協力

埼玉大学の学生が、美術館の教育普及事業に参画した場合、その活動を大学の単位として認定する協定を継続。
また、他大学にも様々な教育普及事業への協力を依頼した。

(3) 博物館実習生の受入れ

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要領」に基づき、学芸員志望の学生向けに実習を行った。実習期間は合同実習（7月下旬の4日間）と個別実習（7月末から8月末までの間の3日間）の合計7日間で、14大学18人を受け入れた。（定員20人）

個別実習：7月20日～8月31日、合同実習：7月16日～7月19日

実習では主に以下の内容をもとにカリキュラムを組んだ。

- ① 美術館全般について（学芸、管理、施設見学等）
- ② MOMA S コレクション（常設展）について
- ③ 企画展の概要・実務・関連事業等について
- ④ 美術資料の収集と保存について
- ⑤ 作品・図書等の取り扱いについて
- ⑥ 学校・教育普及事業の概要・学校との連携・「MOMA Sのとびら」・ボランティア制度について
- ⑦ 広報と刊行物について

(4) 学校を含めた団体利用の受入れ

以下の7つの内容を組み合わせて鑑賞・体験学習を行った。

- ① 1階展示室「MOMASコレクション」案内
- ② 2階展示室「企画展」案内
- ③ かならず出会える作品たち（屋外彫刻）案内
- ④ グッドデザインの椅子鑑賞
- ⑤ ワークショップ「洗濯ばさみで絵を描こう！」体験
- ⑥ アートカードを使った鑑賞
- ⑦ バックヤード見学

31 団体 1,175 人（1月31日現在）

(5) 学校への授業協力

以下の内容の他、児童生徒の実態や授業のねらい等に合わせた出張授業を行った。

- ① 「知ってる？ピカソ！」
- ② 「日本画って何だろう？」
- ③ 「みつめよう！シャガールさんのこの思い」
- ④ 「見て★座って！お気に入りの椅子を見つけよう！」
- ⑤ 「洗濯ばさみで絵を描こう！」

63校 5,897人（1月31日現在）

(6) 研修協力

依頼に応じて、各学校の校内研修や市町村単位での図工・美術の授業研究において講義等を行った。

11 件（1月31日現在）

(7) 学校等への複製画やアートカードの貸し出し

当館収蔵作品の複製画や複製パネル、アートカードなどの教材貸出を学校に貸し出した。

22件76セット（1月31日現在）

(8) 「ミュージアム・キャラバン」の実施

県内の学校にアーティストと当館職員を派遣してワークショップを行い、鑑賞や制作活動を通して児童生徒に美術の楽しさや美術的な価値観・視点を伝えるための授業を実施した。

テーマ：「丸シールでいろいろな世界を描こう！」 講師 大村雪乃（現代美術家）

・1月24日（金）新座市立栄小学校、参加者 100人 / ・1月30日（木）さいたま市立河合小学校、参加者 177人

(9) 公募プログラム

「みつめて、かんじて、たべてみて！-作品のみかた・味わいかた」の開催

美術館における教育普及活動の価値をアピールし、学校連携の強化・継続を図るため、県内の児童生徒を対象とした公募プログラムを実施した。

令和6年度は、4点の課題作品から1点を選び鑑賞し、作品からわき上がった「食」のイメージを描くプログラムを開催した。

応募作品から10点の受賞作品を選考し、表彰式及び総合グランプリの作品をもとに創作した料理を試食するイベントを開催した。

（表彰式及び試食イベントの様子は美術館ホームページでも紹介。<https://pref.spec.ed.jp/momas/kouboten>）

対象：県内の小、中、高校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校（級）の児童生徒（個人または4人以下のグループ）

作品受付期間：7月19日（金）～9月20日（金）

応募作品総数：217点

課題作品：①因藤壽《こんばんは》1951年

②ジャン・アルプ《バラを食べるもの》1963年

③宮島達男《Number of Time in Coin-Locker》1996年

④フィリップ・スタルク《ラ・マリー》製品化：1998年

作品展示期間：10月29日（火）～1月13日（月・祝）※1階ギャラリーに展示

表彰式／試食イベント：11月10日（日）

8 ボランティア活動

(1) 美術館サポーター

常設展の解説ガイドを行うボランティアとして平成12年に発足し、当館が月1回開催する研修会へ参加するとともに、自主的な研修を重ねている。主な活動としては、「MOMASコレクション」開催中のほぼ毎日、午後2時から30分程度、来館者の鑑賞を支援するため作品解説を行った。登録者数：25人（1月31日現在）

(2) 教育普及サポート・スタッフ

「夏休みMOMASステーション」、ツアーガイド、「MOMASのとびら」等の教育普及事業をサポートするボランティア・スタッフとして活動している。教員や美術教育に関心を持つ学生等が参加し、毎年6月中旬から7月初めに行う研修を経て、1年間の任期で活動を行った。登録者数：74人（1月31日現在）

(3) 彫刻ボランティア

平成29年度より、土曜日の子供向け普及事業「MOMASのとびら」にて、彫刻洗浄プログラムを行う際の外部講師として活動している。登録者数：8人（1月31日現在）

9 「椅子」の有効活用

国内外のグッド・デザインの椅子を、来館者に自由に鑑賞してもらう。これらの椅子は、企画展やMOMASコレクションの展示替えに合わせ、定期的に入れ替えを行い、常時20脚～30脚程度を館内の各所に配置するとともに、当館ホームページの「今日座れる椅子」コーナーで紹介した。また、学校への授業協力等でも活用している。

10 一般展示室の利用状況

No.	展覧会名	開催期間 R6年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
1	第13回五彩展	4月2日	4月7日	6	3	水彩、油彩、コラージュ	35	472	78
2	apipoのペン画展	4月2日	4月7日	6	4	ペン画、アクリル画	100	808	134
3	第52回主体美術武蔵野作家展	4月9日	4月14日	6	2・3	油彩	68	510	85
4	第39回溪水会展	4月9日	4月14日	6	4	日本画、水彩、油彩、版画	48	469	78
5	第18回フォト・トルトゥーガ写真展	4月16日	4月21日	6	2	写真	60	513	85
6	群炎埼玉支部展	4月16日	4月21日	6	3	水彩、油彩、工芸、写真、創作人形	34	493	82
7	ヨシズミトシオ展 ありあるクリエイションズ創立20周年記念	4月16日	4月28日	12	4	油彩、版画、水墨画	40	913	76
8	第47回女流工芸展 in埼玉	4月23日	4月28日	4	1	工芸	155	1,050	262
9	第9回栗田 ひさし・梨伽絵画二人展	4月23日	4月28日	6	3	日本画、水彩、アクリル、水墨画	61	692	115
10	第27回埼玉二科展	4月30日	5月5日	6	1~4	水彩、油彩、彫刻、デザイン	107	997	166
11	第72回埼玉県美術展覧会	5月29日	6月20日	20	1~4	日本画、油彩、彫刻、工芸、書、写真	3,157	20,302	1,015
12	第43回埼玉県高等学校写真連盟写真展	7月2日	7月7日	6	1	写真	635	1,046	174
13	第29回基の会展	7月2日	7月7日	6	2	油彩、ミクストメディア	17	354	59
14	第34回白の会洋画展	7月2日	7月7日	6	3	油彩	22	362	60
15	第22回埼玉独立展	7月9日	7月14日	6	1	水彩、油彩、アクリル等	67	682	113
16	2024埼玉モダンアート展	7月9日	7月14日	6	2・3	水彩、油彩、版画、彫刻、工芸	34	616	102
17	ヤクモタロウ個展「本能-instinct-」(Taro Yakumo Solo Exhibition「instinct」)	7月9日	7月14日	6	4	油彩、アクリル画	21	418	69
18	第50回埼玉二紀展	7月16日	7月21日	6	1~4	油彩、彫刻	98	878	146
19	岡部文明のサーカス展-魅了され追い求めた50年-	7月23日	8月4日	12	1~4	水彩、油彩、ドローイング	137	1,543	128
20	晨翔会書展	8月6日	8月11日	6	1~2	書	350	1,144	190
21	第58回埼玉平和美術展	8月13日	8月18日	6	1~4	日本画、水彩、油彩、版画、写真、書等	392	1,276	212
22	創立70周年記念第36回墨芳展併催第10回墨芳学生展	8月21日	8月25日	5	1、3	書	436	836	167

No.	展覧会名	開催期間 R6年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
23	新洋画会埼玉支部展	8月20日	8月25日	6	4	日本画、水彩、油彩、ドローイング、工芸	31	704	117
24	tuk×line	8月27日	9月1日	6	4	油彩、ドローイング	80	330	55
25	第37回埼玉創元展（公募）	9月3日	9月8日	6	1	日本画、水彩、油彩、版画	55	632	105
26	第62回公募新構造埼玉展	9月3日	9月8日	6	2～4	水彩、油彩、ドローイング、版画、彫刻、写真	65	1,433	238
27	埼玉県芸術文化祭2024地域文化事業第67回埼玉書道展（併催・高等学校臨書の部）	9月13日	9月15日	3	1～4	書	738	1,201	400
28	第41回埼玉県写真サロン	9月17日	9月22日	6	1	写真	423	1,125	187
29	美術協会純展・埼玉支部展	9月17日	9月22日	6	2	日本画、水彩、油彩、ドローイング、版画	43	561	93
30	ポローニア展	9月17日	9月22日	6	3	油彩、工芸、アクリル画	38	416	69
31	第14回ニッコールクラブさいたま支部写真展	9月17日	9月22日	6	4	写真	57	843	140
32	第16回フォトサークル・オプト写真展	9月24日	9月29日	6	2	写真	238	644	107
33	フォトグループWAVE第38回写真展	9月24日	9月29日	6	3	写真	85	582	97
34	2024第10回椽の会展	9月24日	9月29日	6	4	日本画、ミクストメディア、アクリル	54	423	70
35	公募第56回第一美術協会埼玉支部展	10月1日	10月6日	6	1	水彩、油彩、彫刻、工芸、水墨画	111	909	151
36	第57回埼玉三軌展	10月1日	10月6日	6	2～3	日本画、水彩、油彩、工芸	62	637	106
37	日本リアリズム写真集団浦和支部第12回写真展	10月1日	10月6日	6	4	写真	92	512	85
38	第20回記念水彩連盟埼玉西支部展	10月8日	10月13日	6	1	水彩	46	711	118
39	第25回地平展	10月8日	10月13日	6	2	日本画、水彩、油彩、ドローイング、彫刻等	58	631	105
40	第39回アート現字展	10月8日	10月13日	6	3	油彩、アクリル等	53	487	81
41	第40回溪水会展	10月8日	10月13日	6	4	日本画、水彩、油彩、版画、水墨画等	41	604	100
42	現代中国芸術国際交流展第6回目	10月15日	10月20日	6	2	日本画、水彩、油彩、書	26	724	120
43	第33回旺玄会埼玉支部展	10月15日	10月20日	6	3	日本画、水彩、油彩、版画、アクリル等	41	448	74
44	全日本写真連盟浦和支部写真展	10月15日	10月20日	6	4	写真	27	330	55

No.	展覧会名	開催期間 R6年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
45	第45回太平洋埼玉展	10月22日	10月27日	6	1	水彩、油彩、版画、染織	89	572	95
46	悠友展	10月22日	10月27日	6	2～3	水彩、油彩	52	471	78
47	ヨシズミトシオ展 ありあるクリエイションズ藝術企画	10月22日	11月3日	12	4	油彩、版画、水墨画	42	815	67
48	キルトリーダーズ埼玉パッチワークキルト作品展2024	10月29日	11月3日	6	1	パッチワークキルト	256	911	151
49	現代アート「実験02展」	10月29日	11月3日	6	2	水彩、油彩、版画、彫刻、工芸	67	526	87
50	第42回キヤノンフォトクラブ浦和写真展	10月29日	11月3日	6	3	写真	44	457	76
51	2024CAFネビュラ展	11月6日	11月17日	11	1～4	日本画、水彩、油彩、版画、彫刻等	102	3,145	285
52	第63回高校書道展	11月20日	11月24日	5	1～4	書	756	850	170
53	第67回埼玉県高校美術展	11月27日	12月1日	5	1～4	日本画、水彩、油彩、ドローイング等	935	4,294	858
54	第15回埼玉県障害者アート企画展	12月4日	12月8日	5	1～2	水彩、油彩、工芸等	600	2,045	409
55	2024阿佐見昭彦写真展 Arch重なり合う記憶の継承	12月3日	12月8日	6	3	写真	38	1,021	170
56	第3回グループ・エスポワール絵画展	12月3日	12月8日	6	4	水彩、油彩	36	629	104
57	第58回全日本書道芸術展	12月10日	12月15日	6	1～2	書	167	576	96
58	紙画展～和紙で描く紙画の世界～	12月10日	12月15日	6	3	和紙ちぎり絵	37	619	103
59	何気ない日々の一期一会(Ⅱ)	12月10日	12月15日	6	4	写真	45	433	72
60	第59回「郷土を描く児童生徒美術展」	12月21日	12月22日	2	1～4	水彩	120	835	417
61	第27回凧の会展	1月7日	1月12日	6	1～4	水彩、油彩、版画、彫刻	157	544	90
62	「足尾」一風土円環 鈴木喜美子展	1月14日	1月19日	6	1～3	油彩	84	1,292	215
63	手編み作品展	1月14日	1月19日	6	4	手編み	97	663	110
64	文教大学教育学部学校教育課程美術専修卒業制作展	1月21日	1月26日	6	1	水彩、油彩、工芸、彫刻	44	604	100
65	文教大学美術専修OB・OG展	1月21日	1月26日	6	4	水彩、油彩、ドローイング等	26	460	76

208日
県展を除く 188日

合計	73,023人	351人
※県展無	52,721人	280人

埼玉県立近代美術館 一般展示室利用状況（年度別）

令和7年1月31日現在

年度		一般展示室					備考
		1 (612.8㎡)	2 (231.5㎡)	3 (138.9㎡)	4 (161.3㎡)	計 (1,144㎡)	
元	利用可能週	43	43	43	43	172	86件
	利用週	38	34	35	40	147	
	利用率	88.4%	79.1%	81.4%	93.0%	85.5%	
2	利用可能週	39	39	39	39	156	40件
	利用週	16	12	15	22	65	
	利用率	41.0%	30.8%	38.5%	56.4%	41.7%	
3	利用可能週	50	50	50	50	200	61件
	利用週	29	25	24	28	106	
	利用率	58.0%	50.0%	48.0%	56.0%	53.0%	
4	利用可能週	46	46	46	46	184	85件
	利用週	37	39	39	42	157	
	利用率	80.4%	84.8%	84.8%	91.3%	85.3%	
5	利用可能週	46	46	46	46	184	87件
	利用週	38	39	35	42	154	
	利用率	82.6%	84.8%	76.1%	91.3%	83.7%	
6	利用可能週	37	37	37	37	148	65件
	利用週	31	32	34	35	132	
	利用率	83.8%	86.5%	91.9%	94.6%	89.2%	

※利用実績には県展を含む【R2及びR3は、新型コロナウイルス感染症対策のため、県展は実施されず。】

令和6年度入館者数一覧（令和7年1月31日現在）

	入館者数	展 示 事 業						普 及 事 業				貸 館 事 業		
		MOMAS コレクション	企 画 展 示					企画展 関連	MOMAS コレクション 関連	教育・普及 関連	資料閲覧室	一 般 展示室	埼 玉 県 美 術 展 覧 会	
			アブソリュート・ チェアーズ	吉田克朗展	没後30年木 下佳通代	メキシコへの まなざし	企画展計							
開 催 期 間	4/1(月) ～ 1/31(金)	4/1(月) ～ 1/31(金)	4/1(月) ～ 5/12(日)	7/13(土) ～ 9/23(月)	10/12(土) ～ 1/13(月)	2/1(土) ～ 3/31(月)						4/2(火) ～ 1/26(日)	5/29(水) ～ 6/20(木)	
日 (日) 数	256	244	38	66	76	-	180	16	8	115	124	188	20	
(人) 観 覧 者 数 利 用 者 数	153,121	32,789	6,190	8,863	6,365	-	21,418	709	183	5,452	1,813	52,721	20,302	
(人) 1 日 当 た り 平 均	598	134	162	134	83	-	118	44	22	47	14	280	1,015	
有 料	一般個人	入館料 無 料	9,754	3,334	3,588	2,545	-	9,467	-	-	-	-	-	-
	一般団体		1,905	347	425	435	-	1,207						
	大高個人		751	349	361	232	-	942						
	大高団体		68	13	15	68	-	96						
	(人) 合 計		12,478	4,043	4,389	3,280	-	11,712						
無 料	-	20,311	2,147	4,474	3,085	-	9,706	-	-	-	-	-	-	

月別入館者数

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	(人) 合計
令和6年度	14,617	15,842	22,931	12,556	14,068	15,293	14,039	17,486	13,792	12,497	-	-	153,121
令和5年度	13,314	13,105	21,028	9,171	14,874	13,763	13,195	17,611	10,203	11,385	12,309	18,018	167,976

令和7年度 事業計画(案)

1 常設展示事業

(1) MOMASコレクション(常設展)の開催

年間を4つの会期に分け、名品を核とした「セレクション」のコーナーと、テーマを掲げたコーナーを設け、収蔵作品を様々な視点から紹介する。

◆会期：6月7日(土)－8月31日(日)

「セレクション」：ピカソほか、MOMASコレクションの名品を紹介。

「特集：デビュー50周年記念 山本容子」：初個展当時を振り返りつつ、1970年代後半から80年代半ばまでの山本容子の初期作品を紹介。

◆会期：9月6日(土)－11月30日(日)

「セレクション」：モネほか、MOMASコレクションの名品を紹介。

「MOMASの動物園」：動物モチーフの作品から、動物に向けた作家のまなざしや人間と動物の関係を読み解く。

「アーティストの絵本」：元永定正やタイガー立石らの版画と絵本をあわせて展示。

◆会期：12月6日(土)－令和8年3月1日(日)

「セレクション」：大正期に活躍した日本の美術家の作品や、彼らが刺激を受けた西洋近代美術の作品を紹介。

「埼玉のゆるい絵・素朴な絵」：日本の近代絵画に見られる微笑ましく可らしい、「ゆるい」表現をテーマに紹介。

◆会期：令和8年3月7日(土)－5月31日(日)

「セレクション」：シニャックほか、MOMASコレクションの名品を紹介。

「さいきんのだまもの」：近年新たに美術館のコレクションに加わった作品を紹介。

「頭／体」：美術を通して表現される身体の神聖さや物質性、理性と本能をテーマにコレクションを紹介。

(2) コレクション・トークの開催

MOMASコレクションで展示中の収蔵作品から1点を選んで、当館学芸員が解説する。(年10回程度実施予定)。

2 企画展示事業

(1) 企画展の開催

特定のテーマのもとに、国内外の作品を年4回展示する。

展覧会名	内 容	作品数 (予定)	期 間	観覧者 見 込
メキシコへの まなざし	1950年代の日本では、メキシコ美術が盛んに紹介され、多くの美術家 がその鮮やかな色彩や力強い造形表現に魅了された。当館では、開館以 来メキシコの近現代美術を収集してきたが、その出発点には、50年代 のメキシコ美術に対する熱いまなざしがあったと考えられる。本展で は、メキシコに憧れた日本の美術家たちの足跡と、当館のコレクション の双方から、戦後日本がメキシコ美術をどのように捉えたのかを考察す る。	148点	自 2月1日（土） 至 5月11日（日） （88日間/ R7年度・37日間）	約5,200人 （R7年度内 見込）
Nerhol展（仮 称）	Nerhol（ネルホル）は、グラフィックデザイナーの田中義久（1980-） と彫刻家の飯田竜太（1981-）により2007年に結成されたアーティスト デュオである。連続写真や映像から抽出した画像の出力紙の束を彫り刻 む独自の制作手法を基軸としつつ、その観測範囲を他者や他領域と接合 し、時空間を超えた因果関係の複雑な絡み合いや、不可視化された物語 までも語りうる豊かな表現へと深化させてきた。本展覧会は、これまで の表現活動の歩みを振り返った千葉市美術館における個展（2024年） を経て、新作・未発表作を中心に構成する。	調整中	自 7月12日（土） 至 10月13日（月・ 祝） （84日間）	約11,900人

展覧会名	内 容	作品数 (予定)	期 間	観覧者 見 込
野島康三と斎藤与里 (仮称)	<p>写真家・野島康三（1889～1964）は浦和に生まれ、明治の終わりから大正期にかけて絵画の影響が色濃い写真を制作、後には新興写真の動向に身を置き、『光画』や国画会などに作品を発表した。加須出身の洋画家・斎藤与里（1885～1959）は、京都で学んだのちフランスに留学。帰国後は西洋の最新の芸術を紹介しながら、次第に日本美術にも影響を受け、晩年には独自の画風を追究した。</p> <p>本展覧会では、画廊の経営者やコレクター、あるいは評論家や教育者として同時代の美術を支援する役割も果たした両者の足跡を、関連作家の作品や資料を交えて紹介する。</p>	約 200 点	自 11月1日（土） 至 1月18日（日） （66日間）	約 9,300 人
コレクションの舞台裏 (仮称)	<p>1982年に開館した埼玉県立近代美術館は、継続的な収集活動により、現在4,000点以上の作品を収蔵している。この展覧会では、その中から複数の学芸員が「これは」と思う作品を各々の視点で選び、その作品に関するリサーチの成果をもとに展示する。最新の調査研究や来歴、関連資料などを通じて、コレクションの新たな見方や、通常はなかなかご覧いただけない側面をお楽しみいただく機会とする。</p>	調整中	自 2月7日（土） 至 5月10日（日） （79日間（予定）/ R7年度・46日間）	約 6,500 人 (R7年度内 見込)

(2) アーティスト・プロジェクトの開催

MOMAS コレクションや企画展の枠を超え、現在活躍しているアーティストを紹介する展示プログラムとして開催する。

展覧会名	内 容	作品数 (予定)	期 間	観覧者 見 込
アーティスト・プロジェクト#2.08 松平莉奈	京都を拠点に活動する松平莉奈（1989-）は、日本画や東洋の絵画の画材や技法をベースに、日本近世の史実や物語、歴史上の人物などを題材にした具象画を制作している。「他者について想像すること」をテーマとした松平が描く人物像は、時にユーモラスに、時に迫力をもって、けして完全にはわかりあえない他者への理解、共感を促す。本展では新作を中心に紹介する。	16 点	令和7年 自 2月1日（土） 至 5月11日（日） （88日間/ R7年度・37日間）	—
アーティスト・プロジェクト#2.09 江頭誠	江頭誠（1986-）は、民芸品、日用品、西洋家具などを、戦後日本で普及した花柄の毛布で覆う立体作品やインスタレーションを制作している。近年では、ある場所に毛布で覆われた物を配し、場所や物にまつわる記憶を浮かび上がらせると同時に、そこに集う人たちとも関わり、場所、物、人との有機的な関係を探り続けている。本展では、新作を交えて、インスタレーションを展開する。	調整中	自 2月7日（土） 至 5月10日（日） （79日間（予定）/ R7年度・46日間）	—

3 美術作品収集事業

近現代美術を対象に、本県にゆかりのある作家及び本県の美術界に影響を与えた国内外の作家の作品を収集する。

4 一般向け普及事業

(1) ミュージアム・レクチャーの開催

多くの方々に美術および関連領域に親しんでもらうため、レクチャーを含むプログラムを開催する。内容については当館で開催する展覧会や収蔵作品と必ずしも結び付けず、聴講者が今後当館だけでなく様々な場で作品を鑑賞する時や、制作を行う際の刺激となることをねらいとする。

期 日	内 容	講 師	定 員	参加費
調整中	調整中	調整中	60人（予定）	無料（予定）

(2) ミュージアム・シアターの開催

映画や音楽、パフォーマンスといった、展覧会ではなかなか紹介できない表現について取り上げるプログラムとしてミュージアム・シアターを開催する（テーマ、実施時期等は調整中）。

(3) 一般団体案内

企画展やMOMASコレクション展を観覧する2名以上の団体を対象に、スライドによる案内（「スライド・トーク」）を行う。内容は、観覧する展覧会の見どころや作品解説、美術館全体の案内、屋外彫刻の解説など、希望に応じた内容・時間で対応する。なお、視覚障がい者を対象としたガイドも受け付ける。

(4) 資料閲覧室の運営

国内外の美術図書、雑誌を公開するとともに、美術情報の提供や資料相談を行う。

開室時間：火・木・土曜日の13時～17時

(5) 広聴広報活動

ア 来館者の意見を美術館活動に反映していくため、アンケートコーナーを設置する。

併せて、企画展、MOMASコレクション、普及関連の講座等で調査を実施する。

- イ アンケートやインターネットで受け付けた質問や要望に対し、随時回答を行う。
- ウ 広報紙「ソカロ(MUSEUM NEWS)」、「MUSEUM CALENDAR」及び企画展ポスターやちらし、学校向けの利用案内等を作成し、県内の情報拠点や全小・中・高、特別支援学校、全国の美術館等に配布する。
- エ 美術館ホームページやX、Facebook、YouTube を活用して、企画展やMOMAS コレクション、その他の様々な催し物の内容や利用案内など、最新の美術館情報を発信する。
- オ プレスリリースの配信、記者発表、プレス内覧会の実施など、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、WEB 等各種の媒体に対して積極的なパブリシティに努める。
- カ Google Arts & Culture に参加し、当館のコレクションやストリートビューを発信する。
- キ MOMAS コレクション及び企画展の開催にあわせ、JR 東日本大宮支社の協力を得て北浦和駅構内にポスターを掲出する。また、北浦和地区の自治会、商店会との協力関係を築き、企画展チラシの回覧や掲示を行う。
- ク 県民の日に MOMAS コレクション観覧料無料サービスを実施する。
- ケ 国立国会図書館によるデータベース「ジャパンサーチ」に収蔵作品の情報を提供し、一般に公開する。

5 美術館の利用促進事業

(1) 北浦和公園ポリス・コンサート

北浦和公園の活用を通じて、美術館利用を促進するため、下記の事業に協力する。

期 日	内 容	場 所	客 席	参加者数
6月7日（土）	「北浦和公園ポリス・コンサート」 出演：埼玉県警察音楽隊・カラーガード隊 主催：埼玉県警察本部広報課	北浦和公園	100席 (予定)	—

(2) ファミリー鑑賞会

ベビーカーの赤ちゃんや未就学児など、乳幼児のお子様と一緒にゆっくり作品を観覧していただけるようMOMASコレクション「ファミリー鑑賞会」を実施する。(年2回程度)

期 日	内 容	定員
調整中	スタッフによる作品解説及び観覧サポート	—

6 子供向け事業

(1) 「MOMASのとびら」

主に土曜日に「MOMASのとびら」としてワークショップを開催する。

各ワークショップは、職員を中心に、授業連携をしている埼玉大学の学生や当館ボランティア「教育普及サポート・スタッフ」の協力を受けて実施する。各回の定員があり参加者が限られてしまうため、プログラムによっては同じ内容を複数回行う。

	プログラム	概要	期日	内容	定員
1	みる+つくる	MOMASコレクションや企画展を鑑賞し、鑑賞をもとに工作などを行う。	7月 5日 7月19日 3月 7日 3月14日	調整中	各24人
2	親子クルーズ	MOMASコレクションや企画展を親子で鑑賞し、鑑賞をもとに工作などを行う。	10月 4日 10月25日 2月 7日 2月14日	調整中	各12組
3	み～っけ!	幼児(4歳から)とその保護者の美術館デビューをねらい、美術館でのできごとを体いっぱい楽しむプログラムを行う。	5月31日 6月14日 12月6日 12月13日	調整中	各8組

	プログラム	概要	期日	内容	定員
4	工房	美術館ならではの作品づくりを楽しむプログラムを行う。	4月19日 11月 8日 11月29日 1月24日	調整中	各24人
5	彫刻あらいぐま	屋外彫刻を親子で洗って鑑賞する。彫刻ボランティアが講師として活動する。	4月26日 5月10日 9月20日 9月27日	あらってみよう！彫刻作品	各6組
6	フリープログラム	天候・会場等に合わせ、誰でも参加できるプログラムを実施する。プログラムの内容や会場等に応じて、時間制で複数回実施する。	4月 5日 6月 7日 7月26日 9月13日 10月11日 12月20日 1月10日 2月21日 3月21日	調整中	調整中
7	サマー・アドベンチャー	夏休み期間限定の特別プログラムを行う。	8月 2日 8月 9日 8月16日 8月23日	調整中	調整中
8	もますまつり	ゴールデンウィークや県民の日に、誰でも参加できるプログラムを行う。	令和7年5月3日 令和7年11月14日	調整中	調整中

(2) 「夏休みMOMASステーション」

夏休みに来館した子供たちが美術館を効果的に活用できるように、必要に応じて情報提供やアドバイス等を行う。

※公立小・中学校の夏休み期間に合わせて休館日を除き毎日開催（7/12～8/24、41日間予定）

(3) 「夏休みガイド・ツアー」

来館した小・中学生を主な対象として、夏休み期間中の午前中の30分間、常設展示室をサポート・スタッフが対話型の鑑賞を行いながら案内する。

7 学校との連携

(1) 教員美術講座の開催

美術館を活用した鑑賞指導に関する講演会等を開催し、学校における美術館利用促進と鑑賞教育の充実を図る。

期 日	内 容	定 員
令和7年8月上旬	調整中	各回30名程度

(2) 埼玉大学との授業連携・他大学との協力

埼玉大学の学生が、美術館の教育普及事業に参画した場合、その活動を大学の単位として認定する協定を継続する。
また、他大学にも様々な教育普及事業への協力を依頼する。

(3) 博物館実習生の受け入れ

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要領」に基づき、学芸員志望の学生向けに実習を行う。（定員20人）

(4) 学校を含めた団体利用の受入

以下の7つの内容を組み合わせて鑑賞・体験学習を行う。

- ① 1階展示室「MOMASコレクション」案内
- ② 2階展示室「企画展」案内
- ③ かならず出会える作品たち（屋外彫刻）案内
- ④ グッドデザインの椅子鑑賞
- ⑤ ワークショップ「洗濯ばさみで絵を描こう！」体験等
- ⑥ アートカードを使った鑑賞
- ⑦ バックヤード見学

(5) 学校への授業協力（随時実施）

以下の内容の他、実態やねらいに合わせて出張授業を行う。

- ①「知ってる？ピカソ！」
- ②「日本画って何だろう？」
- ③「みつめよう！シャガールさんのこの思い」
- ④「見て★座って！お気に入りの椅子を見つけよう！」
- ⑤「洗濯ばさみで絵を描こう！」
- ⑥「キラキラ★カチカチ スプーンワールド」
- ⑦「この絵、どうなる？～瑛九の作品をみて想像しよう！～」

(6) 研修協力（随時実施）

依頼に応じて、各学校の校内研修や市町村単位での図工・美術の授業研究、公民館の講座において講義等を行う。

(7) 学校への複製画やアートカードの貸し出し

当館収蔵作品の複製画や複製パネル、アートカードなどの教材を貸し出す。

(8) 「ミュージアム・キャラバン」の実施

県内の学校をアーティストと共に訪問してワークショップを行い、鑑賞や制作活動を通して児童生徒に美術の楽しさや美術的な価値観・視点を伝える授業を展開する。（年2校での実施を予定）

(9) 公募プログラムの開催

「みつめて、かんじて、たべてみて！-作品のみかた・味わいかた」の開催

美術館における教育普及活動の価値を広くアピールし、学校連携の強化・継続を図るため、県内の児童生徒を対象とした公募プログラムを実施する。

8 ボランティア活動

(1) 美術館サポーター

常設展の解説ガイドを行うボランティアとして平成12年に発足し、当館が月1回開催する研修会へ参加するとともに、自主的な研修を重ねている。主な活動としてMOMA S コレクション開催中、午後2時から30分程度、来館者の鑑賞支援のため作品案内を行う。

(2) 教育普及サポート・スタッフ

「夏休みMOMASステーション」、ツアーガイド、「MOMASのとびら」等の教育普及事業をサポートするボランティア・スタッフ。教員や美術教育に関心をもつ学生等が参加し、毎年6月中旬～7月初めに行う研修を経て、1年間の任期で活動を行う。

(3) 彫刻ボランティア

平成29年度より、土曜日の子供向け普及事業「MOMASのとびら」にて彫刻洗浄プログラムを行う際の外部講師として活動している。洗浄プログラムは、春と秋に実施予定。

9 「椅子」の有効活用

国内外のグッドデザインの椅子を、入館者に自由に鑑賞してもらう。

これらの椅子は、企画展やMOMASコレクションの展示替えに合わせて、定期的に入れ替えを行い、常時20脚から30脚程度を館内の各所に配置するとともに、当館ホームページの「今日座れる椅子」コーナーで紹介する。また、学校への授業協力や「MOMASのとびら」プログラムでも活用する。

令和6年度 博物館施設 目標設定・評価シート

年度当初目標設定
中間評価(6月末実績)
年度末確定評価
1/31現在

施設名 近代美術館

I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト(自己点検表)

II 目標設定

- 1 中期重点目標と取組みの設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組みの概要

III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

I 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

- 1 美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。
- 2 人々が集い、参加し、交流するための基地となります。
- 3 未来を創る子供たちの感性と創造力を育みます。
- 4 地域や県民とともに進化する美術館を目指します。

2 現状分析と課題の抽出

・出会い・発見・感動をキーワードに、新たな視点に基づく企画展・常設展や美術の楽しさを体感できるプログラムの提供に努めており、今後も更なる充実を図る必要がある。

・そのためには、美術資料収集基本方針に基づいた体系的なコレクションを形成し、作品の継続的な収集と適切な保存に努めるとともに、美術館活動の基盤となる調査研究を推進しなければならない。

・美術館では、展示室に加え、レストランやミュージアムショップなども備えているが、より上質な空間とゆとりの時間を提供できるような工夫をしなければならない。併せて、高齢者・障害者を含め誰もが利用しやすく、居心地の良い環境となるよう老朽化した施設設備の整備に努める必要がある。

・また、「MOMASのとびら」をはじめとする、子供向け教育・普及事業を積極的に実施している一方で、子供たちが感性や創造力を生き生きと発揮できる事業の検討が求められている。

・地域との連携を一層深めるとともに、美術館が地域の賑わいや活性化に寄与することが求められている。併せて、地域住民の憩いの場である北浦和公園の整備と活用も進める必要がある。

・デジタル化に対応するため、収蔵作品のデジタル・アーカイブ化とその公開を進めるなど、デジタル技術を活用した取組を推進して新たな顧客層の開拓を進めることが必要である。

II 目標設定

1 中期重点目標と取組の設定

【中期重点目標】

- | | |
|------------------------------------|---------|
| ① 美術資料の体系的な収集と適切な保存のための施設の確保に向けた検討 | 令和5～9年度 |
| ② 調査研究と企画展・常設展等の更なる充実 | 令和5～9年度 |
| ③ 利用者のための快適な環境づくり | 令和5～9年度 |
| ④ 子供たちの感性と創造力の育成 | 令和5～9年度 |
| ⑤ 地域の賑わいや活性化の創出 | 令和5～9年度 |
| ⑥ デジタル技術の活用の推進 | 令和5～9年度 |

【取組】

- ① 美術作品取得基金における動産の買戻しへの働きかけと新収蔵庫等の確保に向けた検討
- ② 収蔵作家、埼玉ゆかり作家の調査研究とその成果を生かした展示等の実施
 <企画展・常設展の満足度 各年度90%以上>
- ③ 美術館と北浦和公園の計画的な施設設備の整備
 <改修・修繕件数 R5:30件、R6:30件、R7:30件、R8:30件、R9:30件>
- ④ 子供向け教育・普及事業の充実
- ⑤ (1)地域の賑わいや活性化を創出する取組の実施
 (2)一般向け教育・普及事業の実施
- ⑥ 収蔵作品のデジタル画像(高精細画像を含む)の公開
 <公開画像件数 R5:1900件、R6:2300件、R7:2700件、R8:3100件、R9:3500件>

(1)全館共通項目

項目	チェック内容	達成基準	
		達成度	課題等
		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取組が不十分	2
		実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	2	寄贈・寄託による作品収集は行っているが、予算上作品購入が困難な状況。
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか	3	
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3	
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	3	
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	2	予算の範囲内で修復作業を行っているが、十分ではない。
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか。	3	
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか。	3	
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3	
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化(画像を含めた)に取り組んでいるか	3	作品情報は公開している。画像は、著作権者に意向を伺いながら、可能な作品は、公開の手続きを進めている。
常設展示	① 展示設備等を適宜点検しているか	3	
	② 常設展示は定期的に更新しているか。	3	
	③ 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	展示替え毎に、閲覧できる解説カードを設置している。
	④ 展示解説等を適宜実施しているか	3	コレクション・トーク
	⑤ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	
	⑥ 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	2	館内サイン、常設展示の作品名は、英語表記等に対応済み。企画展のコーナー解説や掲出物の翻訳は一部に限る。
	⑦ 観覧者の満足度は得られているか	3	
学習支援・普及事業	① 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか(参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等)	3	
	② アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3	
	③ 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3	
	④ 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3	

項目	チェック内容			
情報発信	①	SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	②	資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③	定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④	デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	3	著作権者に了解を得られた資料から順次、デジタル画像等を公開している。
県民との協働・地域連携	①	ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	②	ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③	外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④	地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	3	
	⑤	地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調査研究	①	収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	②	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	3	
	③	館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	④	学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	3	
施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	3	
	②	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	2	トイレ等の音声ガイダンスは未実施。
	⑤	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	2	英・中・ハンゲル語のフロア案内のみにとどまっている。
	⑥	展示室内の安全性の確保(監視員の配置・監視カメラの設置等)に努めているか。	3	
施設の活用	①	施設利用のための情報を公開しているか	3	
	②	施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④	施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

施設名 近代美術館

(2)館別独自項目

達成基準	
未実施、又は取り組まれていない	1
実施しているが、取組が不十分	2
実施、又は達成している	3

項目	チェック内容	達成度	課題等
企画展示の実施	① 企画展の理解を深めるため学芸員や関係者による展示解説、講演会等を適宜実施しているか	3	
	② 展示内容に即した弾力的な広報活動を実践しているか	3	
	③ 外部資金の導入に努力しているか	3	
	④ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	
教育普及および連携・支援活動の実施	① 美術や芸術全般に対する理解を深めるテーマを設定した事業を適宜実施しているか	3	
	② 授業や部活などの受け入れ体制を整備しているか	3	
	③ 教員の資質向上を目的とした研修を実施しているか	3	
	④ 学校への職員派遣など、授業協力を実施しているか	3	
	⑤ 大学と協働して学生を適切に指導しているか	3	
流地域・域協力事業との実施	① 地域・他機関・他美術館との協力事業を実施しているか	3	
	② 企画展等を通じ国外美術館等と相互交流を図っているか	3	
	③ 北浦和公園を活用した地域との交流・協力事業を実施しているか	3	彫刻あらいぐま、ポリコンサートを実施。また、自治会も含めた公園の防災設備の使用訓練等を実施予定。個人・近隣企業のボランティアによる植栽の手入れ等も実施している。
収蔵作品等の保全と危機管理	① 収蔵庫における収蔵作品と防災対策は適切か	3	
	② 展覧会会場の作品保全と防災対策は適切か	3	
	③ 美術作品の梱包、運搬は適切に行われているか	3	
	④ 屋外彫刻のメンテナンスを行っているか	2	定期的に洗浄は実施しているが、対応が難しい彫刻素材等の劣化がある。
	⑤ 危機管理マニュアル等は適宜、見直しを行っているか	3	
	⑥ 危機管理マニュアル等は、全職員に周知しているか	3	
	⑦ 開館中や閉館時など、様々な場面を想定した避難訓練を行っているか	3	

Ⅱ-2 単年度指標による目標値と達成値

令和7年1月31日現在

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命1~4 全般的活用	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	203,000	人	78.2%	教育振興基本計画を踏まえた目標値
				158,751	人		
2	使命1 展示公開	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	37,730	人	86.9%	基準値:34,956人 目標参考値:37,724人 基準値:過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値:基準値と昨年度値を比較し大きい方の数値
				32,789	人		
3	使命1~4 全般的活用	利用者数	1日当たりの利用者数	670	人	92.5%	(年間入館者+アウトリーチ)÷開館日数 上記の過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値(基準値)か昨年度値と比較して大きい方の数値(目標参考値)
				620	人		
4	使命2~4 情報発信・活用	デジタル情報の利用状況	HPアクセス数	912,250	件	85.2%	基準値:875,550件 目標参考値:912,242件 基準値:過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値:基準値と昨年度値を比較し大きい方の数値
				776,937	件		
5	使命1~4 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	240	件	67.1%	基準値:238件 目標参考値:238件 基準値:過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値:基準値と昨年度値を比較し大きい方の数値
				161	件		
6	使命1~3 活用・利用提供	経営努力	観覧料および事業等収入額	25,992,000	円	60.9%	* 当該年度予算計上額(企画展) 使用料及び手数料 12,332,390円 財産収入 3,494,040円
				15,826,430	円		

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命1 展示公開	企画展観覧者	年間企画展観覧者数	37,557	人	57.0%	実施予定の企画展の予算積算人数 アブリュート・アブリュート・フェアーズ(令和6年度)/6,190人、 吉田克朗/8,863人、木下佳通代/6,365人
				21,418	人		
2	使命3 学校との連携	学校利用	学校団体の美術館利用校数	40	校	75.0%	基準値:31校 目標参考値:36校 上記の過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値(基準値)か昨年度値と比較して大きい方の数値(目標参考値)
				30	校		
3	使命3 学校との連携	授業協力	学校での鑑賞授業の回数	50	校	126.0%	基準値:45校 目標参考値:45校 上記の過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値(基準値)か昨年度値と比較して大きい方の数値(目標参考値)
				63	校		
4	使命3 子供向け事業	MOMASのとびら	MOMASのとびら参加人数	1,390	人	156.9%	基準値:846人 目標参考値:1,386人 上記の過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値(基準値)か昨年度値と比較して大きい方の数値(目標参考値)
				2,181	人		
5	使命1 満足度	アンケート	企画展・常設展の満足度	90%以上	%	100.0%	中期重点目標による取組 企画展:アブリュート・フェアーズ 97%、吉田克朗 96%、木下佳通代 95% / 常設展:MOMASコレクション(6/8-8/25)99%、(8/31-11/24)97%
				97.00%			
6	使命2 施設設備の整備	改修・修繕	改修・修繕件数	30	件	116.7%	中期重点目標による取組 業者依頼分:21件 職員対応分:14件(レストランドアノブ、流しの詰まり修繕、樹木伐採、展示パネルキャスター交換など)
				35	件		
7	使命4 デジタル技術の活用	収蔵作品のデジタル画像	公開画像件数	2,300	件	134.8%	中期重点目標による取組 上半期は、主に各著作権者への意向確認、写真のスキニングなどの作業を実施。年度末にまとめて公開作業を行う予定。
				3,100	件		

※ 利用者数=常設展観覧者数+無料入館者数+アウトリーチ参加者数 常設展観覧者数=特別展・企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数
 ※ 基準値:過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値:基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値 目標値:目標参考値の1の位を繰り上げた数値 ※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

3 取組の概要

施設名

近代美術館

1 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

- 利用者数、利用状況、広聴・広報、経営努力

新型コロナウイルスによる利用者の減少を回復させるため、企画展、常設展等のさらなる周知を図る。

また、引き続き感染症拡大防止に努めながら、トークイベントや担当学芸員の作品解説のほか、主催事業の参加者の増加を見込んでいる。

(2) 館別独自項目

- 企画展

館HPやチラシの配布など広報活動により企画展内容の魅力発信を行い、入館者数の増に結びつけていく。

- 学校との連携

広報活動等を積極的に行うことにより学校の美術館利用を促進し、学校での鑑賞授業回数を増やしていく。

- 子供向け事業

MOMASのとびらなどについて、引き続き感染症拡大防止に努めながら、よりたくさんの参加者を募ることができるよう、内容の充実と広報活動を進める。

- 情報提供サービス、インターネット活用などの利用状況

美術館に関心を持ってもらえるよう広報を充実させ、年間レファレンス対応件数を伸ばすとともに、ホームページの内容を魅力あるものに改善していく。

- 満足度

企画展・常設展については既に満足度が90%以上と高い満足をいただいている。来館者の声を聴き、各展示の充実に努めていく。

Ⅲ 評価

1 自己評価総括

(1) 評価

(2) 課題と対応の方向

2 外部評価委員等によるコメント